展示室4　砂盃コレクションの現代美術　2017年4月15日(土)～6月25日(日)

砂盃コレクションは、前橋市出身の作家でコレクターでもあった砂盃富男氏（1930～2001）が蒐集した、版画を中心とした400点を超える美術作品のコレクションです。

砂盃氏は銀行に勤務しながら絵を描き始め、1963～66年には前衛美術団体「群馬NOMOグループ」に参加し、それ以降はデカルコマニーの手法による作品を制作、発表しました。作品のコレクションを始めたのは1963年頃で、転勤により全国各地に居を移しながらも美術への関心と情熱を持ち続け、自分の眼と感性に訴えかける作品を購入していきました。定年退職後の1992年には前橋の自宅に「イサハイ･ベル･イマージュ美術館」を開設し、それら作品の数々を公開しました。

このコレクションは、ピカソや浜田知明といった作家による、戦争をテーマとした作品群と、国内外の現代美術作品の大きく二つに分類することができます。ここでは、当館に寄託された作品の中から、このコレクションで重要な位置を占める作家、マッタ、サビエ、松澤　宥をはじめ、現代の作家たちによる作品を紹介します。

No.	作者名	(生没年)	作品名	制作年	技法･材質	寸法(cm)
1	ロベルト･マッタ	(1911-2002)	『劫罰』より	1966	エッチング、アクアチント･紙	24.4×19.8
2			『ホメロスⅠ（カオスモス）』より	1973	エッチング、アクアチント･紙	49.0×37.5
3			『ホメロスⅠ（カオスモス）』より	1973	エッチング、アクアチント･紙	49.0×37.5
4			『ホメロスⅢ（エルゴノート）』より	1977	エッチング、アクアチント･紙	49.0×37.5
5			『ホメロスⅣ（ポワン･ダピュイ）』より	1983	エッチング、アクアチント･紙	49.5×38.0
6	ラインハルト･サビエ	(1956-　)	ある慢性病にかかった青年	1993	クレヨン、コンテ、グアッシュ･プレクシガラス、紙	117.0×92.0
7	李　禹煥	(1936-　)	風より 3	1986	ドライポイント･紙	65.0×54.0
8			港より 1	1989	ドライポイント･紙	29.8×23.8
9			港より 3	1989	ドライポイント･紙	23.8×29.8
10	村岡三郎	(1928-　)	THE END	1959	鉄、アクリル、スポンジ	55.0×38.0×38.0
11			落下する熱	1992	鉄、硫黄、ガラス	41.0×12.0×12.0
12	荒川修作	(1936-2010)	それを見よ	1968	シルクスクリーン･マイラー	82.0×103.0
13			意味されるもの あるいはもしも　No.2	1975-76	エッチング、アクアチント･紙	60.5×90.5
14	高松次郎	(1936-1998)	英語の単語	1970	オフセットリトグラフ･紙	78.0×54.0
15			日本語の文字	1970	オフセットリトグラフ･紙	61.0×26.0
16	松澤　宥	(1922-2006)	ここは20002年前（ウルム氷期）海底だった	1986	シルクスクリーン･紙	90.5×90.0
17			ここは紀元2002年に再たび海底となるだろう	1986	シルクスクリーン･紙	90.5×90.0
18			人類滅亡以後にこの辺を支配している動物の卵よ パイロファイルーファロス･ファロレスよ	1986	シルクスクリーン･紙	90.5×90.0
19			あなたの余命 あなたはこの16年以内に消滅する全人類とともに	1986	シルクスクリーン･紙	90.5×90.0
20			あなたの余命 あなたはこの16年以内に消滅する全人類とともに	1986	シルクスクリーン･紙	90.5×90.0
21	彦坂尚嘉	(1946-　)	P.W.P.155　ユートピアの冒険Ⅴ	1990	アクリル･木	43.5×43.5×7.5

※展示作品は全て寄託作品です。
※都合により展示作品を変更する場合もございます。ご了承下さい。

群馬県立近代美術館